

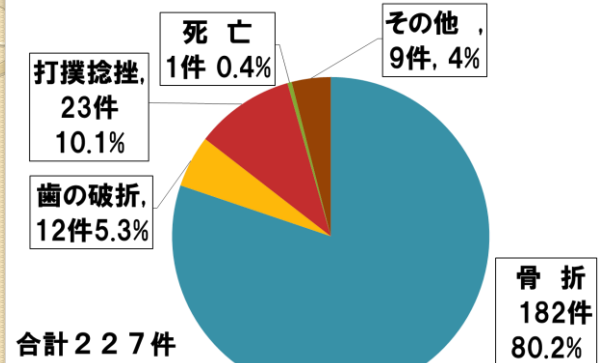
研修2【安全・管理】 ～事故発生時の 具体的な対応の仕方～



岐阜県教育委員会スポーツ健康課

1

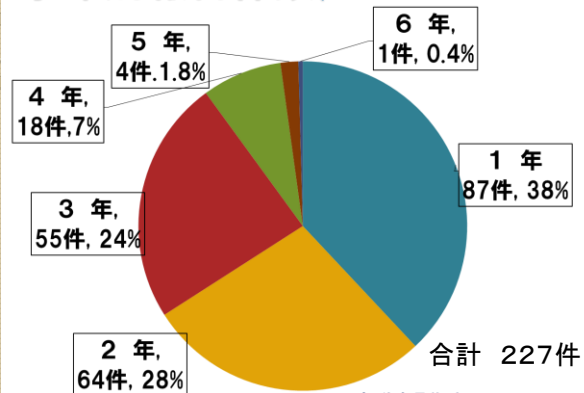
負傷等の内訳 (放課後児童クラブ)



H23.10～H24.9 33都道府県集計
厚生労働省雇用均等・児童家庭局調査結果より

2

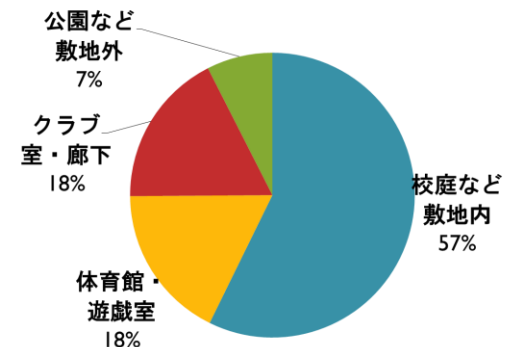
学年別報告件数 (放課後児童クラブ)



H23.10～H24.9 33都道府県集計
厚生労働省雇用均等・児童家庭局調査結果より

3

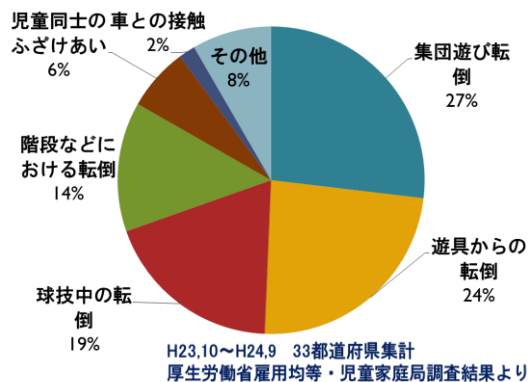
場所別 (放課後児童クラブ)



H23.10～H24.9 33都道府県集計
厚生労働省雇用均等・児童家庭局調査結果より

4

事故発生の事由(放課後児童クラブ)



事故発生の主なケース

- 集団遊び中の転倒 (おにごっこ、かくれんぼ)
- 遊具からの転落 (鉄棒、すべり台、うんてい等)
- 球技中の衝突、転倒 (サッカー、ドッジボール等)
- 施設内を走る、つまずくなどで転倒
- 他児童から押される、蹴られるなど、児童同士のふざけあい
- 帰宅中や、クラブに向かう途中の車との接触
- 入退室事の出会い頭の衝突

小学生に多いけがは？ (学校管理下)

★頭部・顔部のけがが多い！
全体の34%を占める。

上肢部	32%
下肢部	25%
顔部	24%
頭部	9.5%

毎年同じ傾向である。
中学生 (17.7%) 高校生 (15.4%)

独立行政法人日本スポーツ振興センター

歯・口のけが (学校管理下)

- 小学校では、転倒、物に衝突、人に衝突、が原因で歯・口をけがすることが多く、歯・口のけが全体の84.2%を占める。
- 場合別でみると休憩時間中が61%を占めており、事故が起こりやすいことがわかる。

小学校の発達特性

- 身体的機能が発達途上であり、バランス感覚等がつかみにくい。
- 感情のまま、突発的な行動を起こしやすい。
- 危険を予測して行動することが難しい

独立行政法人日本スポーツ振興センター

歯・口のけがの発生事例(登下校中)

- 登校中、歩くのが遅く「早く歩いて」と後ろからランドセルを押され、前へ倒れて前歯が折れた。
- 下校中、斑旗を投げて遊んでいたところ、棒の部分が、別の子の歯に当たり歯が折れた。

9

下校中の死亡事故が多い

(学校管理下)

- 死亡事故件数は、下校時が60%を超えている。
- 下校時の安全指導には配慮は必要。
- 平成13～23年度(11年間)の災害共済給付データによると、死亡総数は327件です。
- 通学中の事故は、そのうち189件を占めます。

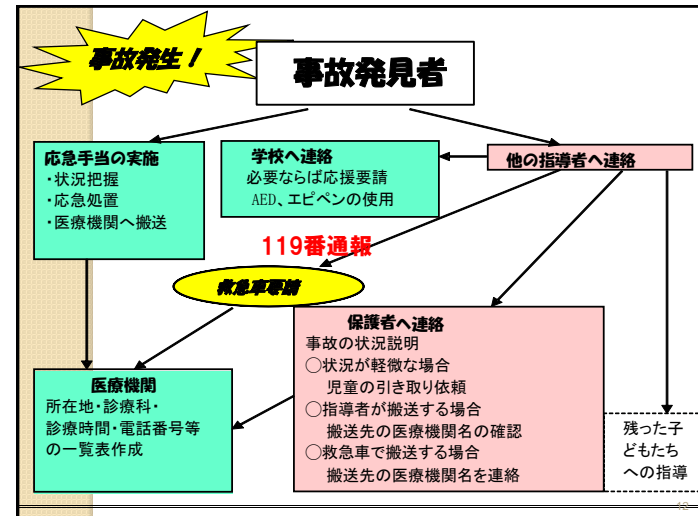
独立行政法人日本スポーツ振興センター

10

子どもの健康管理

- 子どもの健康状態について把握
健康管理カード等(情報管理)
保護者から提供された情報
- 日常の健康観察
出欠確認と健康観察を必ず行う。
- 緊急時の連絡先
※変更があった場合は必ず把握。
- 軽度と思われるけが等の場合でも必ず保護者に連絡する。

11



実際に困った事例から

- ①学校にいるときから体調不良だった児童を預かることになった。
- ②放課後教室までの移動時、児童間のトラブルによるけがが起きた。
- ③けがや病気の手当てに困った。
- ④警報発令により、急に下校時刻が変更されたため、人数が把握できない。

13

食べ物（おやつ）について

- **食物アレルギー**のある児童を把握し、誰もが食べられるものを用意する。
- 食事の妨げにならない程度の量。
- **食べているときは、必ず見守る。**
(アナフィラキシー・ショック
や誤嚥防止)

14

食物アレルギー アナフィラキシーへの対応

- 1 食物アレルギーのある児童の把握 (**エピペン®所持の確認**)
- 2 調理やおやつを提供するときは保護者に事前に連絡。
- 3 アナフィラキシー・ショック起こした場合の対応について保護者、関係者で事前協議をしておくこと。

15

頭部打撲は要注意！

小2女子 8月 管理外

10:30頃 駐車場とグラウンドの境の50cm程度の高さの柵で左側頭部打撲。

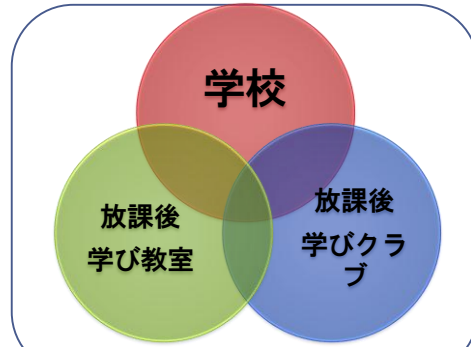
左側頭部が赤くなっていたが、様子に変化がなく、自宅に戻り昼食も食べる。

16:00頃 顔色が悪くなったため、横になって休んでいたが、嘔吐が続き、近くの病院へ受診。救急搬送される。

急性硬膜下血腫→手術後回復

16

安心・安全で健やかな
子どもたちの居場所作りのために



子どもたちが生き生きと活動できるよう、関係者が連携することが大切